

る。この民族衣裳についての資料を収集し種々の観点から考察した。

2 昭和32年9月より昭和33年10月まで欧米各国に滞在現地に於て調査した。オランダではアムステルダム、及びその近郊殊にゾイデル海の小島 Marken, Vellendam の2個所について実地調査をし、その他の地方については各地出身の婦人達から実地の説明を聞き博物館をも利用した。

3 同じオランダでも地方によって全くデザインが異なることを知った。

殊に Marken, Vollandam では日常生活にすべての人が民族衣裳を用いており、種々の興味ある資料を得ることが出来た。

## 58 現存する民族衣裳に関する研究（第1報）

### オランダ

中村榮養短大 加地 悦子

1 服装に関しては世界各国いずれも一様に現代服が使用されている現状であるが、いまだに各国個有の民族衣裳はその日常生活に残されている。伝統の上に育った民族衣裳を研究することは、その国を理解する一端となり、又、現代服をデザインする上の着想の一助因とな